

| | | | | | | | |
|--|-----|--------------------------|-----|--------------|-----|----------------|--|
| [科目名] メディアとジャーナリズム | | | | [単位数] 2単位 | | [科目区分] 教養科目 | |
| [担当者] 河田 喜照 他 | | [オフィス・アワー] 時間: 場所: | | | | [授業の方法] 講義 | |
| [科目の概要] <ul style="list-style-type: none"> この講義では、マスメディアが、その社会的使命である「ジャーナリズム」をどう実現しようとしているかオムニバス方式で解説する。新聞記者経験者や広告・販売の担当者らが登壇、現場の情報を通じてメディアとジャーナリズムに対する理解を深めてもらう。 ネット社会における情報伝達手段の変化と問題点について考え、メディアリテラシー育成にこれまで以上のウェートを置く。 新聞を読む機会をもうけ、時事問題に触れてもらう。 | | | | | | | |
| [「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 民主主義社会において、正確な情報を市民に伝達する機能は不可欠である。その役割を担うメディアについての理解は主権者として必要な素養である。 一方で、ネット社会の進展により、情報伝達の方法は大きく変化している。ネット空間では玉石混交の情報が飛び交い、フェイクニュースと呼ばれる虚偽情報、またフィルターバブル(自分の興味のある情報ばかりが集まる現象)などが問題になっている。かつてないほどメディアリテラシーの必要性が高まっており、その向上に役立つ機会としたい。 | | | | | | | |
| [科目の到達目標] 中間目標 <ul style="list-style-type: none"> 新聞社やテレビ局などのマスメディアが果たしている社会的役割を知る。 現場の活動を知ることで、マスメディアの機能に対する正確な知識をもってもらおう。 報道活動が抱える問題点について理解する。 ネットメディアの進展とその落とし穴について考えてもらう。 最終目標 <ul style="list-style-type: none"> われわれの社会におけるジャーナリズムの機能と問題点を理解する。 メディアリテラシーを高め、健全な市民・社会人としての素養を身につける。 | | | | | | | |
| [ディプロマ・ポリシー(DP)との関係] | | | | | | | |
| 学部 | | | | 学科 | | | |
| DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP1 | DP2 | DP3 | |
| | | ○ | | | | | |
| [学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] <ul style="list-style-type: none"> 健全な社会を維持する上でジャーナリズムが果たしている役割を理解してもらうことを一番の目標に置いた。 ネット社会に即した情報リテラシーの向上に向け、生成AIによる虚偽情報など新しい事象にも触れていきたい。 新聞をもとに時事的な内容を扱った点が好評だった。今後も広く時事問題を扱っていきたい。 メディアとジャーナリズムについてもっと深く学びたいとの声があったため、より深みのある内容にしていくよう努める。 | | | | | | | |
| [教科書] 特になし | | | | | | | |

| | |
|--|--|
| 〔指定図書〕 特になし | |
| 〔参考書〕 毎回、当日付の新聞を配布する。 | |
| 〔前提科目〕 特になし | |
| 〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 中間レポートおよび最終試験を課す。 | |
| 〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 <ul style="list-style-type: none"> ・新聞社やテレビ局など、いわゆるマスメディアの報道活動は、若い世代に正しく理解されていないところが多分にある。メディアに携わる人たちがどんなことを考え、どんな活動をしているのか理解してもらえよう努力する。時事的な内容も織り交ぜながら現場の声を伝えていくので、メディアとジャーナリズムについて理解を深める機会にしてほしい。 ・複数の講師によるオムニバス形式のため、都合によって講義の順番が前後することがある。あらかじめ了承していただきたい。 細かい知識を覚えることは要求しない。授業のテーマを通じて自分で考える姿勢を大事にしてほしい。 | |
| 〔実務経歴〕 新聞記者、広告担当者、NIE(教育と新聞)担当者など | |
| 授 業 ス ケ ジ ュ ー ル | |
| 第 1 回 | <p>テーマ(はじめに):</p> <p>内 容: メディアの意味やジャーナリズムの理念について伝え、国内・県内の新聞、テレビ、ラジオ、雑誌を紹介。動画を使いニュースができるまでの基本的な流れをつかんでもらう。またネットメディアによるニュースの現状と進展の状況にも触れる。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p> |
| 第 2 回 | <p>テーマ(NIB 実践1 よく分かる新聞の読み方):</p> <p>内 容: NIB(ニューズペーパー・イン・ビジネス)は、仕事で役立つ新聞の活用法を紹介する取り組み。初回のテーマは新聞の読み方。新聞の見出しや紙面レイアウトにも意味、役割がある。紙面づくりのルールが分かれば、より面白く新聞を読むことができる。</p> |
| 第 3 回 | <p>テーマ(NIB 実践2 記事から学ぶ文章術):</p> <p>内 容: 新聞記者はどんなことを考えながら記事を書いているのか。取材をする上で注意していることは何か。読まれる記事とはどんな記事か。紙面に掲載された記事を使って考え、簡潔な文章を書くコツを紹介する。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p> |
| 第 4 回 | <p>テーマ(ジャーナリズムの歴史):</p> <p>内 容: 近代ジャーナリズムの成立について。17 世紀のイギリスにおける市民社会の成立と新聞ジャーナリズム。日本における江戸時代の落首や瓦版の考察。明治政府の牧民思想に対する自由民権運動と新聞のかかわり、戦時中の検閲と一県一紙令、戦後のあゆみなど。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p> |

| | |
|------|---|
| 第5回 | <p>テーマ(紙とデジタル～ネット報道の現場から):</p> <p>内 容: 新聞社におけるデジタル展開の歩み。Web東奥から東奥日報アプリまで。デジタル報道の現況。自社サイト、ヤフー、LINE など外部配信、SNSなど。生成 AI とメディア。フェークを見抜くには。「偏りのない情報摂取」のために ほか。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p> |
| 第6回 | <p>テーマ(ネット情報とメディアリテラシー):</p> <p>内 容: フェイクニュース、デイスインフォメーションの考察。アメリカの米連邦議会乱入事件など具体的な例をもとに、ネット情報の危うい面を認識する。また SNS の使い方とフィルターバブル、エコーチェンバーなどデジタルメディアを利用する際のワナについても考える。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p> |
| 第7回 | <p>テーマ(住民に寄り添う地方紙の役割)</p> <p>内 容: 地方紙は、地域との距離が近いからこそ地域の課題や良さをきめ細かく報道することができる。医療福祉分野で主に取材してきた記者の経験を踏まえ、住民と同じ目線で報道する地方紙の役割の大切さを考える。コロナ報道についても触れる。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p> |
| 第8回 | <p>テーマ (広告の役割と機能～事例紹介と営業について～)</p> <p>内容: 「もし、広告がなかったら?」「広告もニュースである」など、新聞やテレビの広告の分類、役割と機能を考える。事例を紹介しつつ、対象や背景、目的なども伝え、広告をより身近なものとしてとらえてもらう。新聞社における広告担当部門の組織、営業についても触れ、職業としての業務も理解してもらう。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p> |
| 第9回 | <p>テーマ(事件・事故と司法手続き):</p> <p>内 容: 日々報道される事件や事故。報道における大きな分野だが、その取材体制はどうなっているのか舞台裏を紹介する。また逮捕や送検、起訴、裁判など司法手続きを理解することで事件・事故のニュースに対する理解を深めてもらう。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p> |
| 第10回 | <p>テーマ(テレビ、ラジオの報道):</p> <p>内 容: 日本の放送メディアについて紹介する。放送法第4条の存在による新聞や雑誌、ネットメディアとの違いを知ってもらう。またニュース報道とワイドショー(ニュースを使った娯楽色の強いテレビ番組)の違い、広告で成り立つ民放の構造などについて説明し、放送メディアについてのリテラシーを高めてもらう。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p> |
| 第11回 | <p>テーマ(ネットの進展がもたらす変化):</p> <p>内 容: ネット配信の普及によってメディアの地殻変動が起きている。テレビ番組のネット同時配信に加え、TVer や NHK+ など再配信も当たり前になった。Netflix などオンデマンド配信の進展、存在感を増す Youtube などを取り上げながら激変するメディア環境について考える。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p> |
| 第12回 | <p>テーマ(地域ジャーナリズムの役割):</p> <p>内 容: 地域ジャーナリズムについて考える。ローカル記事や番組の需要と「劇場効果」による共感性。スクープの種類、行政に対するチェック機能を知る。また地元紙が消えたアメリカの地方都市で起きた「ニュース砂漠」と呼ばれる現象などを例に地域ジャーナリズムの役割を考える。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p> |

| | |
|------|---|
| 第13回 | <p>テーマ(青森県と基地):</p> <p>沖縄に次いで「第2の基地県」と呼ばれる青森県。米軍・自衛隊の基地と関連施設は多数に上り、機能は複雑多岐にわたる。ロシアによるウクライナ侵略や台湾問題など「新冷戦時代」の到来が叫ばれる中、その実態を説明し、マスメディアがどのように報じてきたのかについて紹介する。</p> <p>内 容: 教科書・指定図書 なし</p> |
| 第14回 | <p>テーマ(ジャーナリズムの問題点とジレンマ):</p> <p>内 容: 近年、報道に対する市民の目線が厳しくなっている。「ハゲワシと少女」の写真をめぐる議論などを例にジャーナリズムが抱えるジレンマについて学ぶ。また政治的スタンスの違いと報道、集中報道への批判、実名報道と匿名報道、記者クラブの役割など、報道が抱えるジレンマ、問題点について考える。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p> |
| 第15回 | <p>テーマ(ジャーナリズムが守るもの)</p> <p>内 容: デジタルプラットフォームや SNS がニュース媒体として台頭し玉石混交の情報があふれる中、「正しく正確な情報」「社会に資する建設的な情報」を選別して提供する必要性がますます増大している。社会の公共資本としてのメディアとジャーナリズムをどう守り、新しい時代に向けて再構築をしていくべきかを考える。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p> |
| 試験 | <p>中間レポートおよび期末試験を課す</p> |